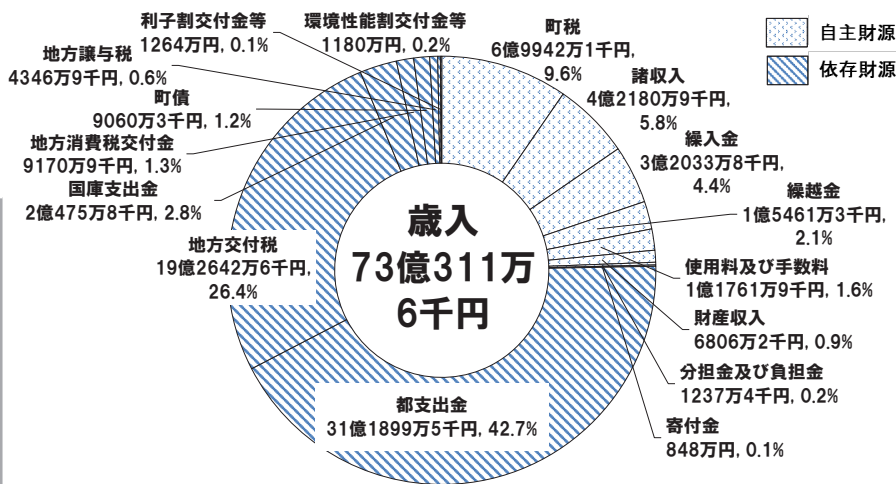


令和元年度決算が認定されました

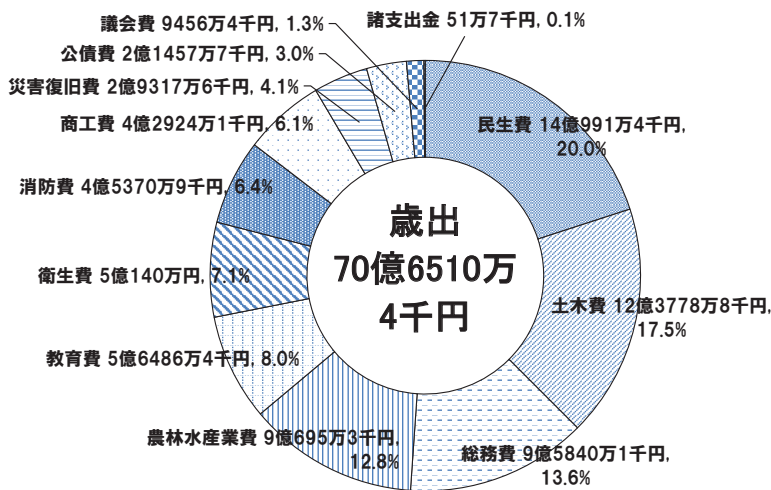
令和元年度決算が町議会9月定例会で認定されましたので、主な内容をお知らせします。

【一般会計】 令和元年度の一般会計決算額は、歳入が73億311万6千円、歳出が70億6510万4千円で、収支差引額は2億3801万2千円、翌年度繰越財源5052万円を除いた実質収支額は1億8749万2千円となりました。令和元年度は、10月の台風第19号災害により、多額の災害復旧費が掛かったため、前年度に比べて、歳入額は11.9%、歳出額は10.9%の大幅増となりました。

【令和元年度一般会計決算額および構成比】



【歳入】 災害復旧への交付金などにより都支出金が大きく増となり、依存財源合計は約55億円、歳入全体の75%に達しました。対して、自主財源で最も大きい町税は、前年度から0.7%の減となりました。例年、町の歳入に占める自主財源の割合は、全国の同規模町村と比べて非常に低い値となっています。



【歳出】 障害者地域活動支援センター（民生費）や町営若者住宅（土木費）の建設、大丹波国際釣場管理棟（農林水産業費）や奥多摩駅前観光トイレ（商工費）の改修など、大型の建設事業を多く実施したことに加え、台風第19号災害に約3億円の災害復旧費を支出したことなどにより、前年度から約7億円の増、合計70億円を超える過去最大規模の歳出となりました。

【町税収入の推移】

